

気候変動も考慮に

水防災対策委 札幌で初会合

今年8月に四つの台風が連続して道内に上陸。接近し、大きな被害が出たことを踏まえ、防災対策の在り方を議論する「水防災対策検討委員会」の初会合が28日、札幌市で開かれた。気候変動を考慮した治水や、今回の大雨で被害が出た上流域や支川への対策などを議論し、年度内に報告書をまとめる。

北海道開発局と道の主催で、河川工学の専門家ら委員9人が出席。今日出入開発局長は8月の大雨が記録的な量だったと説明した上で、「気候変動の影響は現実的になっており、今後は水害の頻発化なども懸念される。北海道が全国に先駆けて考えていく必要がある」と述べた。

委員からは「海外では温暖化など今後の気候変動を踏まえた対策が進められているが、日本では過去のデータに基づき考え方になりがちだ」「国や道が管理する河川は長大。優先順位を付けて対策を進めるべきだ」などの意見が出た。【一條優太】